

特 集

司会の言葉

斉藤 俊 弘*

近年、高血圧治療は長足の進歩をとげ、ほとんどの高血圧症は降圧可能であるといわれている。しかし、高血圧症治療の目的は、単に血圧を下げることではなく、高血圧症による心血管系の合併症を予防することにある。したがって、降圧薬による治療にしても、降圧効果だけではなく、同時に、心・腎・脳などの臓器の保護効果がどれくらいあるかということが重要である。さらにまた、高血圧症では種々の心血管疾患を合併するケースも多く、また、さまざまな状況下で治療を行わなければならない。すなわち、合併症のある、あるいは臓器障害を有する高血圧症では降圧治療に特別な注意が必要になる。2003年5月に公表された「高血圧の予防、発見、診断、治療に関する米国合

同委員会(JNC)」第7次報告(JNC7)でも、適応の根拠となる臨床試験とともに特定の種類の降圧薬の積極的適応が示されている。そこで、本シンポジウムでは、最初に最近の高血圧治療のレビューをしていただき、次いで、高血圧症の主な合併症である脳血管疾患、心疾患、腎疾患を伴う高血圧治療を如何に行うべきかについて、それぞれのエキスパートの先生方に論じてもらうことにする。すなわち、それぞれの合併症を有する降圧治療について、降圧の是非、至適降圧値、至適降圧薬などについて述べていただく。

きっと明日からの実地診療に役立つと信じている。どうぞよろしくお願い致します。

*柏葉会柏戸病院